

# 龍谷哲学論集

第26号

2012

---

「ドイツの不安」、それとも「ドイツの奇蹟」？

——フクシマとドイツにおけるその帰結

…………… ゲルノート・ベーム

(丸山徳次訳)

無限への思索 —— 「死刑」とソクラテス

…………… 大谷岳文

われわれが自分自身であること

——プロティノスを通しての考察 …………… 渡辺華月

龍谷哲学会

## 龍谷哲学会規約

- 一、本会は龍谷哲学会と称する。
- 二、本会は哲学の研究と教育の発展を図ることを目的とする。
- 三、本会は右の目的達成のために次の事業を行う。
  - (一)講演会ならびに研究会を開く。
  - (二)会誌『龍谷哲学論集』を発行する。
  - (三)その他、会員の親睦交流のための行事を行う。
- 四、本会は龍谷大学文学部哲学科哲学専攻の学部学生、大学院生、研究生、兼任講師、および科目担当の専任教員を正会員とする。それ以外の者が入会する場合は、委員会の審査承認を経て一般会員として処遇する。
- 五、本会の事業を遂行するために委員若干名をおく。委員は龍谷大学文学部哲学専攻の専任教員および委員会の推薦した者に委嘱する。
- 六、会費は年会費を前納しなければならない。年会費は教員五千円、大学院博士課程生四千円、同修士課程生三千円、学部学生千円、研究生・兼任講師・一般会員二千円とする。
- 七、正会員、一般会員ともに会誌の配布を受け、本会主催の各種行事に出席し、発言する権利を有する。
- 八、本会は事務所を哲学合同研究室内におく。
- 九、本規約の改正は委員会の決議による。
- 十、以下の条項は、一般会員、兼任講師などにも適用する。三

年連続で会費未納の場合は、督促状を発行し、さらにその後、半年経過するも、未納の場合は除籍とする。  
 本規約は二〇一〇年四月一日をもって施行する。

### 龍谷哲学会委員

小	林	道	夫	高	田	信	良	竹	内	綱	史	田	中	龍	山	谷	本	光	男	田	村	公	江	藤	本	忠	本	田	裕	志	松	尾	宣	昭	丸	山	徳	次
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

## 「龍谷哲学論集」投稿規定

- 一 本誌は、西洋哲学、倫理学、宗教哲学に関する研究論文を発表する。
- 一 投稿資格は、本学大学院博士課程哲学専攻在籍者、同修了者、本学哲学専攻専任教員、または委員会の推薦した者。
- 一 龍谷哲学会委員会の審査により掲載論文を決定する。
- 一 枚数は四〇〇字詰原稿用紙五十枚相当を標準とする。
- 一 各年度の九月末日までに完成原稿として委員会に提出すること。

## 執筆者紹介

ゲルノート・ペーメ

ダルムシュタット工科大学元教授

丸山 徳次 本学文学部教授

大谷 岳文 本学非常勤講師

渡辺 華月 本学非常勤講師

## 会 告

- 一、会費は 郵便振替口座 〇一〇二〇三一八五七一番 龍谷哲学会 宛にお振込下さい。
- 一、「龍谷哲学論集」の編集に関する通信・寄贈図書・寄贈雑誌等は本会宛にお送り下さい。
- 一、「龍谷哲学」の編集に関する通信は本会 気付「龍谷哲学」編集委員会宛にお送り下さい。

## 龍 谷 哲 学 会

京都市下京区七条大宮  
哲学合同研究室 〒600八二六〇  
電話 京都 〇七五三四三三三三  
一 内線 五三〇一

## 編集後記

昨年の大惨事以後、哲学という学問のあり方があらためて問い直されている、そう感じざるをえません。今号に掲載されているペーメ氏の論文は、同学のもとに集うわたしたちを叱咤激励するものであるように思います。ロゴスを通じてできること、しなければならぬことはたくさんあるはずですが、次号以降も、小誌がそういった営みの発表の場となることを祈念してやみません。

## 龍谷哲学論集 第二六号

二〇二二年一月三十一日印刷

二〇二二年一月三十一日発行

編集者 龍谷哲学会委員会

編集代表 田中龍山

発行者 龍谷哲学会

代表 丸山徳次

印刷

社会福祉法人 京都梅花園  
城陽市市辺石原一ノ二  
電話 〇七七四五二一三六二

# THE RYUKOKU TETSUGAKU RONSHU

THE PHILOSOPHICAL REVIEW  
OF  
RYUKOKU UNIVERSITY

No.26

2012

---

- German Angst oder German Miracle ?  
— Fukushima und die Folgen in Deutschland  
..... Gernot Böhme
- The Death Penalty in the finite World  
— Socrates and his Death  
..... Takefumi Otani
- Being Ourselves — Approach with Plotinus  
..... Katsuki Watanabe

Published by  
**THE RYUKOKU TETSUGAKU-KAI**  
(The Ryukoku Philosophical Society)  
Ryukoku University  
Kyoto Japan